



能登やさしいこめづくり情報 3

令和3年4月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
J A おおぞら

田植え編

育苗日数は1か月以内！

育苗日数1か月以内の健苗の田植えで早期活着！

育苗日数が長く、葉齢が進んだ老化苗を植えると、活着が遅れ、その後の株できも悪くなります。

その結果、出穂期や登熟期がバラつき、未熟粒や層米が多くなることで、品質低下や収量減少につながります。

活着を良くするためには、種もみの中に養分が残っている苗の葉齢2.2葉期から2.5葉期に田植えすることが重要です。葉齢2.2～2.5葉期になるのは育苗開始からおおよそ3～4週間後（20～30日）となります。



1 田植え前の準備について

(1) 苗の準備 昼間20～25℃ 夜間15～20℃

- ① 育苗日数1か月以内の健苗を用意しましょう。(上記参照)
- ② 田植え4～5日前からは、夜間もハウス側面を開放し外気に慣らしましょう(順化)。

(2) 代かき 代かき後「にごり水」は河川へ流入させない

- ① 代かきは田植え4日前までに行い、田面の高低差をなくし均平にしましょう。
※初期剤を散布する場合は、農薬の登録を確認して下さい。
- ③ 雑草の種子は、代かき後から発芽始めます。代かきと田植えの間が長くならないようにしましょう(裏面「代かき後日数とノビエの葉齢の関係」を参照)。

2 田植え作業について

項目	取組内容	備考	
(1) 時期	5月上旬	登熟期の高温を避けるため早植は控える	
(2) 植付	本数	3～4本/株	
	株数	60株/坪以上	植付け本数が多すぎると過繁茂となり品質低下の原因となる 穂数を確保するため、60株/坪以上とする 初期生育不良の恐れがある場合は、穂数確保のため70株/坪(中山間地・低地力田・遅植等)
	深度	2～3cm	初期分けつ確保のため浅植えとする
(3) 田植え直後の水管理	3～5cm	植え傷み防止のため田植え後5日間は深水管理とする	

3 基肥施用について

能登米(コシヒカリ)は化学合成窒素成分量5.6kg/10a以下

基肥一発肥料は代かき直前(全層施肥)または田植同時(側条施肥)で施用して下さい。

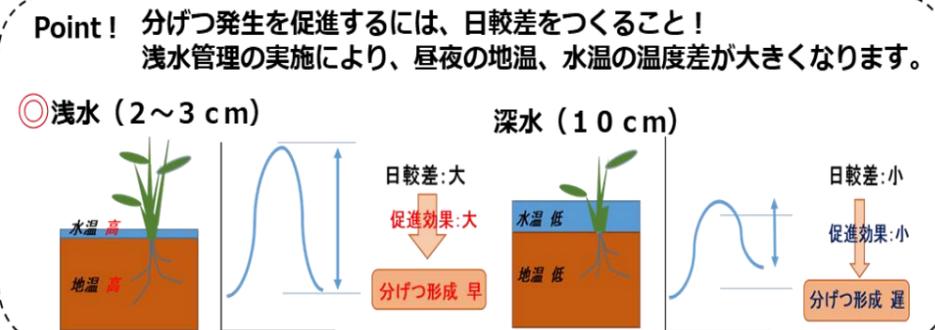
施肥体系	肥料名	施用量(kg/10a)	
		能登米コシヒカリ	早生品種
基肥一発	BB有機入り能登コシー発	20～上限30	—
	BBけい酸パワー・コシー発くん	40～上限55	—
	BB里山の香	45～上限53	—
	BB新早生一発くんDX28		35
分施肥体系	BB高度056号	20～上限28	30～40

- ※注意
- 1: 施用量は目安です。地力に応じて加減する。
 - 2: 能登米コシヒカリは、化学窒素成分量を3割削減した栽培のため、施用量の上限を厳守。
 - 3: 基肥一発肥料を全層施肥する場合、田植えまでの日数が開くと、穂肥の溶け出る時期とイネの生育ステージにズレが生じ、倒伏の原因となるので、代かきと田植え日を5日以上空けない。

4 田植え後から中干しまでの水管理について



- ・田植え後5日間程度は、苗が水没しない程度の深水(3～5cm程度)とし、**低温・強風から苗を保護する。**
- ・活着後は日中2～3cmの浅水管理と軽い田干しを行い、**早期分けつ確保に努める。**



5 補植作業は基本的に行わない

- ・20株に1株程度の欠株なら、補植は不要。
- ・補植苗は、いもち病の発生源となるので、速やかに圃場から撤去する。
- ・どうしても補植作業する場合は、除草剤の散布前に実施する（除草剤散布後に補植すると、補植苗の生育抑制や枯死、足跡からの雑草発生の原因になります）。

6 病害虫防除・除草剤の使用について

(1) 苗箱施薬剤の散布について

苗箱施薬剤名	散布時期	散布量	主な対象病害虫
ツインパディート 箱粒剤 2成分	播種時（覆土前） ～移植当日	50g/箱	いもち病 ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ニカメイチュウ イネツトムシ 他

※JA水稲育苗センターからの購入苗には苗箱施薬剤が散布済みの苗があります。苗箱施薬剤散布済みの苗の場合、薬剤は散布しないこと。

病害虫発生予報第1号(4月15日発行)より

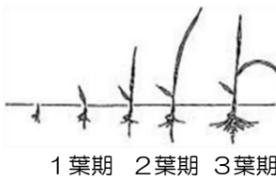
1か月予報では、気温は平年並か高いとされており、前年イネミズゾウムシが多発した地域では、今年度も多発する懸念があります。また、気温が高いとイネミズゾウムシ等、害虫の成育が早まることが予想されますので、昨年より早く被害を受ける可能性があります。生育初期の稲ほど被害が大きくなりますので、**必ず予防のため苗箱施薬剤を規定量施用しましょう。**

(2) 除草剤の使用について

- ・雑草は代かき直後から発生するので、除草剤の使用時期を守り、かつノビエの適用葉齢以内に散布する。
- ・除草剤を散布は、余裕をもって代かきから10日以内とする（代かき後日数とノビエの葉齢は下表を参考にしてください）。

(参考) 代かき後日数とノビエの葉齢の関係

ノビエの葉齢		1.0 葉期	1.5 葉期	2.0 葉期	2.5 葉期	3.0 葉期
代かき後の日数	輪島	8日	13日	18日	23日	27日
(平年の場合)	珠洲	9日	15日	20日	25日	29日



※5月1日に代かきを行なった場合を平年の有効積算温度により試算

ほ場条件に合わせた除草剤の使用について

- ・本田内に雑草が多いと斑点米カメムシ類が集まりやすく、特に、飛翔性で大型のクモヘリカメムシが前年多発したため、今年も多発する可能性があるため、本田の条件に合わせて、除草剤を使い分け、体系的に除草することが必要となる。



基本パターンについては下表を参考にしてください。
他に使用できる除草剤については、能登米栽培こよみを参考にしてください。

ほ場条件で除草剤を使い分ける基本パターン						
ほ場条件	① 雑草(ヒエ等)少ない 水田の水持ちが良い		② 雑草(ヒエ等)が多いほ場 水田の水持ちが良い		③ 雑草(ヒエ等)が多いほ場 水田の水持ちが「悪い」	
	成分	成分	成分	成分	成分	
除草剤	必須	・キマリテ1キロ粒剤 2	・マーシェット1キロ粒剤 1 田植え直後～ヒエ発生前 (代かき後10日以内に散布) ・キマリテ1キロ粒剤 2 マーシェット散布 14日後散布	・キマリテ1キロ粒剤 2 田植え同時処理 ・クリンチャー1キロ粒剤 1 1.5kg/10aを湛水散布でヒエ5葉期まで有効 ・バサグラン粒剤 1 落水散布		
	任意	【後発雑草に応じて】 ・ヒエクリーン1キロ粒剤 1 ・バサグラン粒剤 1	【後発雑草に応じて】 ・ヒエクリーン1キロ粒剤 1			
		合計成分数 2 (4)	合計成分数 3 (4)	合計成分数 4 (4)		
備考	現行栽培パターン		初期剤を入れた後、初中期一発剤を入れることで雑草の発生を長く抑えることができる。		即効性のクリンチャーや落水散布のバサグランを散布することで、水持ちが悪い水田でも雑草を抑えることができる。	

コラム～浅水管理重点地区における実証結果～

令和2年度、初期茎数確保のため、活着後水深2～3cmの浅水管理を重点的に行った地区では、下記の調査結果のように、水温の日較差が大きくなり、**初期茎数が早期に確保されています。**

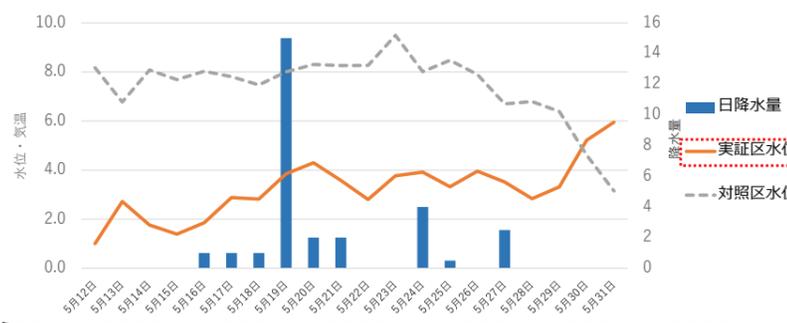


表 5/12～28の水深 (cm)

	平均	最大	最小
実証区	3.0	4.3	1.0
対照区	7.9	9.5	6.7

